



脱原発世界会議2012YOKOHAMA セッション報告書

- 企画タイトル A-4「原発は止められる」
- 日時 1月15日(日) 12:15 - 14:00
- 場所 1F メインホール
- 企画参加人数 約 1,000 名
- 企画団体 原子力資料情報室／グリーン・アクション
- 文責 アイリーン・美緒子・スミス(グリーン・アクション)
- 登壇者
 - アイリーン・美緒子・スミス／グリーン・アクション代表(日本)【ファシリテーター・コメンテーター】
 - ミハエル・ザイラー／ドイツ原子力安全委員会元委員長・現委員、エコ研究所所長(ドイツ)
 - ミランダ・シュラーズ／ドイツ政府環境諮問委員会(ドイツ)
 - 金子勝／経済学者、慶應義塾大学教授(日本)
 - 河合弘之／弁護士、脱原発弁護団全国連絡会代表(日本)

◆ 企画の中でどんなことが発表されまた話し合われたか

企画の途中で参加者同士の交流の時間をとった。「隣の方に今何処から来たのか、そしてこのセッションに何を期待して来たのかをシェアしてください」と言うと、開場中に素晴らしいざわめきが起これり全員一斉に話し始めた。とても良かった。

何が話されたか：

ミランダ・シュラーズ：

福島事故はドイツに大変大きな影響を与え、脱原発の決定を導いたこと、そしてその決定プロセスについて話した。ドイツは脱原発していても、フランスなどの原発に頼らずに済んでいると説明した。

ミハエル・ザイラー：

ドイツは世界で一番良い原発があると信じている。日本も同じと考えられていた。ドイツは今回の事故で「大変信用できる原発」でも大事故が起こりうることを学んだ。どのようなリスクがあるかを評価することが



原子力の専門家の任務であり、政策決定は政策決定者がその専門家の評価を踏まえ、決定を下す。再生可能エネルギーはビックビジネスだ。既存の電力会社は再生可能エネルギーに移らなければ消滅してしまう。エネルギー利用削減が重要。ピークを下げてフラットにしたり、電力グリッドを新しく変えなければならぬ。脱原発は可能だ。技術の問題ではなく政策をどうするかの問題だ。

金子勝：

裏のからくりを話してくれた。日本の中で出回っている幾つかの嘘について、例えば「原発が無ければ成長が出来ない」の嘘などについて話した。原発は逆効果であり、進めればむしろ日本を見捨てていく方向になる。

河合弘之：

日本は地震国。0.3%の全世界の国土で世界の10%の地震が起きる。単純に言って33倍。ある計算だと100倍の率。だから、日本は絶対原発をやってはいけない。世界中の人が日本に「原発を止めろ！」とメッセージを発するべき。とにかく今すぐに日本の原発は全部止めるべき。ゆっくりなんかしてられない。再稼働阻止の法則、差し止め裁判、株主訴訟、電力会社の役員が損害賠償を請求される、首長に働きかける、国会議員へ働きかけるなど、色々な方法を取り、早急に原発を廃止するべき。

ファシリテーターのスミスは、「日本では5月には原発が全部止まります。だから運転再開を止めておけば日本は脱原発が出来ます。」と話した。

◆ 参加者にはどんな方々がいて、どんな意見や反応があったか

参加者は大変熱心で、自分が動くために必要な知識を求めて来た人が多い印象を受けた。

参加者には若い人が少なく、残念だった。

男女比では、男性がやや多かった。

質疑ではファシリテーター（スミス）が「若い方を優先します。あと女性・男性半々にします。」と述べた。積極的な挙手がみられた。

始めの3つの質問は全員女性であった。

質問の内容は、自分が行動するために分かっておきたい情報を尋ねるのが多かった。質問と回答は、以下の通り。

質問：

1. 電源三法交付金があるので地方では原発を受け入れる人がいる。この法律と都市の私たちはどのよう



に戦えばよいのか。

2. 倫理問題として原発を考えるのは腑に落ちる。ドイツの倫理委員会では原子力関連の人が委員として選ばれなかった。これは素晴らしい。誰がどのように委員を選んだのか。
3. 日本では膨大な交付金があり、そのため依存が生み出されている。ドイツではどうなのか。
4. 自分は電気工事工業組合の青年部にいるが、組合としてどのような活用できるか。
5. ソーラーは高価過ぎないか。ドイツではどうなのか。

回答:

質問に対して全員のスピーカーが対応した。

回答者は的確に且つ完結に質問に答えていた。

回答は問題に隠れているからくりが分かる回答であった。

回答の要点:

河合:

運動の一つとして、原発を推進している地元の首長を福島に連れて行くツアーを企画すると良い。現場を見学し、地元と語り合えば苦しみが見える。そうすれば自ずと原発は良くないとなる。

刑事責任を問うのが大事。福島の地元の人が刑事裁判を起こすのがよいかもしれない。つまり、地元の福島県警などが刑事告発に対応する。

シュラーズ:

ドイツの倫理委員会の人選方法は不透明だったが、ドイツ全体を代表する人選だったと思う(半分原発反対、半分賛成)。

ドイツではソーラーは高価だからあまり進めないようにした方が良くはなっていたが、最近コストダウンしている。日本とは違うかもしれないが、ドイツは日照時間が比較的短いので風力が主流だ。

ザイラー:

ドイツでは交付金制度は無いけれど、同じように地元を電力会社に依存させる方法を様々な寄付を通して取っている。

金子:

日本では交付金だけが問題ではない。原発立地の原発からの固定資産税への依存が大きい。日本の構図全体が大事。農業は切り捨てられて今すぐに消滅していくより、原発を選んで、当面は救われるか。しかし結果的に原発のあるなしのどちらが首を絞めるかの選択が、今はない。これを変えないといけない。政府と電力会社は、原発をなくすと電力供給が危ないから続けるべきと言うがそうではない。本当は原発を



止めると電力会社自身が崩壊し、その結果3年後などに供給が出来なくなるという方が事実。後者が起こらないようにするには色々方法がある。それをするのが大事。

◆ 各企画が当初予定していた目的を達成できたか

限られた時間の範囲ですが、目的はかなり達成出来たと思う。

目標は：

「原発はとめられる」というテーマで国内外の実態を聞く。

具体的にどのような方法で止めて行けるのかを共有すること。

最後のシェアリング(2分)は時間切れの為出来ず、とても残念であった。これがあれば、もっとセッション参加者の今後の活動に繋げていけたかもしれない。

◆ 今後の行動につながりそうな新しいつながり、発見など

質疑の時は「若い人を優先します」「男性・女性は半々」と始める前にファシリテーターが言うと、実際そう出来るという嬉しい発見があった。(若い参加者は始めから少数のため、発言も少なかったが、女性はとっても積極的になった。)

以上のようにバランスを取ると、質疑される内容もバランスが取れてとても良いという発見をしました。

参加者自身の行動のために役に立つ内容だったと思われる。

「ドイツはいいね」だけでなく、「ドイツも大変だった」ということもある程度伝わり、その結果、日本も色々工夫してやって始めて脱原発が出来るということが伝わったと思う。

発見は、日本国内の裏にあるからくりをもっと分かるようにしていく大切さも発見だったと思う。

◆ 反省点など

登壇者(スピーカー)の皆さんと初期の段階で対一でどのような内容にしたいかをもっと話し合えれば良かったです。そうすれば、「原発は止められる」に関して、具体的に「どのようにすれば止められるのか」という話を掘り下げることができたと思います。



(写真:中村充利)